

## 丹波の日常と、とある送別会

この時期、ご当地の畑には米か黒豆が大部分を占めているように見えます。整然と植え付けされた黒豆は秋には大きな恵みをこの丹波地域にもたらすものとして今もなお期待されている作物なのであろう。



<黒豆畑>

くぬぎの森に行く途中、稲土への入り口部の路傍に8体のお地蔵さんが思い思いの表情でこちらを見ていました。彼らはここから上流域の集落を見守るかのよう道を通る者をチェックしているようにみえました。



<お地蔵さん>

その後、くぬぎの森の「夏の子ども自然体験行事」に参加すべく行きましたが、小さい子ども達が主役の行事で、当方は少し場違いの感がありました。ここで聞いたところでは、かぶと虫は朝6時ころから大きな木に登り始めて樹液を吸いにゆくとのこと、既に時遅しの時間帯でした。また、幼虫を成長させている小屋の中でもモグラが地中から来て、大好きな幼虫を捕食してしまうと聞き、またまた驚きでした。

くぬぎの森の近傍の加古川に架かる橋の上から上流域を眺めると、雄大な奥丹波(大名草地区)と美しい山並みにしばし見とれていました。



<くぬぎの森>



<加古川上流域の眺め>



<壮行会>

その夜、従姉妹宅にて米国から帰省していたご夫婦（ご主人＝米国人、奥様＝佐治の人）が明後日、NEWYORKに戻られるとのことで壮行会が催され、10名の知人が集合し、私もその一員に加えてもらいました。19～23時ころまで皆よくご当地の話題について話し、かつ呑み、食べ、すべての皿はきれいになっており、激励の趣旨はお二人に十分に伝わったものと感じました。